



西日本豪雨、大阪北部地震

今回の豪雨は、西日本を中心に大変な状況になっており、岐阜県でも飛騨地方、中濃地方を中心に大きな被害をもたらしました。

県内の特別支援学校では飛騨吉城、下呂が9日(月)まで休校、郡上は9日に授業を再開しましたが、各所で通行止めがあり、スクールバスが限定的な運行になり、保護者送迎をお願いしているそうです。関、岐阜盲では学校施設に浸水被害等があったと聞いています。特別警報が発表された地域や避難勧告・指示が出た地域では、避難所で過ごされた家族や教職員もおられました。



pixta.jp - 1593873

この東濃西部地域では、比較的降雨量は少なく、ご家庭や職員にも今のところ大きな被害については聞いておりませんので、ホッとしているところです。本校では、4日(水)～6日(金)までの3日間を休校としました。今回の豪雨については、**早め早めの対応が必要**と考え、岐阜地方气象台など関係機関から直接情報を得ながら、休校措置についても慎重に対応させていただきました。ご理解いただければ幸いです。

6月18日(月)7時58分に大阪北部で震度6弱の大地震が起きました。ブロック塀が倒れ、小学生の女の子が亡くなってしまったことは新聞、テレビ等でも報道されました(本校でも、駐車場入り口に立っていた陶器のお面を積み重ねたトーテムポールが倒れる危険性があったため撤去しました)。大阪では大地震は起きないだろうと思われていたため、その安心感が対策を遅らせたとも言われています。また、この地震は、**南海トラフ巨大地震**の前兆であると指摘する専門家もいます。

19号線から学校に上がってくる道には、「土石流警戒溪流」「落石注意」という看板がいくつかあります。何気なく見ていた看板も、こういった豪雨や地震を目の当たりにすると、全く他人ごとでは済まされないと思えてきます。もし、東海地方に大地震が起これば、この学校に上がってくる道が土砂や落石で埋まってしまう、道が寸断される可能性があります。学校が孤立してしまうわけです。あるいは、登下校中に地震に襲われたらどうしたらいいのか……等々。

学校でも家庭でも、防災について本気になって(実際に起きることを前提にして)考えなければいけないと、痛感しています。

